

2020年2月改訂

# 海底広域研究船「かいめい」 利用の手引き

国立研究開発法人海洋研究開発機構

## 目 次

1. はじめに .....	1
2. 「かいめい」の特徴 .....	1
3. 「かいめい」主要目 .....	2
4. 研究設備 .....	2
4.1 研究室 .....	3
4.2 乗船人数及び居室配置（研究者） .....	3
4.3 研究室電源 .....	4
4.4 研究用コンテナ .....	4
5. 観測設備 .....	5
5.1 主な海洋・海底観測装置 .....	5
5.2 観測ウインチ（常設） .....	5
5.2 観測ウインチ（可搬型） .....	5
5.3 クレーン .....	6
5.4 その他 .....	6
5.5 探査機器 .....	7
6. 航海計器・ネットワーク等 .....	8
6.1 航海計器 .....	8
6.2 通信設備 .....	8
6.3 船内 LAN サーバー .....	9
7. 「かいめい」で提供できるデータ .....	10
8. 運 用 .....	13
8.1 行動の標準スケジュール .....	13
8.2 運航制限 .....	13
9. 安全対策 .....	14
「かいめい」調査観測装置 .....	15
潜水船及び無人機等の海底ケーブルに対する作業安全基準 .....	16

## 1. はじめに

海底広域研究船「かいめい」は、海底資源の分布等海底の広域調査を効果的に行うとともに、鉱物・鉱床の生成環境を捉える総合的科学研究を可能とする研究船です。様々な調査観測機器やサンプリング機器を装備し、海洋環境観測、海底地形調査、海洋気象観測等の総合的な研究観測も行うことが出来ます。本船を利用した調査航海を成功させるには、利用者が本船の持つ能力とその性能を十分に理解しておくことが大切です。

なお、本書は作成時点における手引きであり、機器、オペレーション要領などの変更により、実際と異なる場合があります。

また採択される研究航海により観測機器の運用所掌体制が異なりますので、詳細及びご不明な点は下記お問い合わせ先にご連絡ください。

### 【お問い合わせ先】

国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)

研究プラットフォーム運用開発部門 運用部 船舶運用グループ

住所：〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町 2-15

TEL：046-867-9977 FAX：046-867-9215

E-mail：mare3-fleetops[at]jamstec.go.jp

## 2. 「かいめい」の特徴

- (1) 3モード対応地震探査システム MCSによる海底下深部の地殻構造探査
- (2) OBS（勝島型150台 or 東測型300台）とMCS同時搭載、設置回収作業可能
- (3) 3,000m級無人探査機「KM-ROV」による海底調査
- (4) 6,000m級「パワーグラブ」による採泥
- (5) 3,000m級「BMS」（海底設置型掘削装置）による地層資料の採取
- (6) Full Depth 40m級「GPC」（Giant Piston Corer）、20m級PCによる地層資料の採取
- (7) Full Depth CTD（36本掛採水）観測
- (8) 浅海用及び深海用の2種類マルチビーム音響測深機による海底地形調査
- (9) サブボトムプロファイラーによる地質調査
- (10) 船上重力計・セシウム型曳航式磁力計・船上三成分磁力計による地球物理探査
- (11) 気象海象観測装置、シーロメーター、GPS水蒸気量観測装置、PAR計、GPS気象ゾンデ観測、表層海水連続モニタリングシステム、大気・海水二酸化炭素分圧測定装置、波高計、ADCP（浅海用、深海用）による気象海象観測
- (12) 大型Aフレームクレーンによる係留系設置回収、AUV&ASV着水揚収作業
- (13) 無人探査機「ハイパードルフィン」、深海曳航調査システム「ディープ・トウ」、自律型深海探査機「じんべい」、「ゆめいるか」の運用
- (14) 各種研究用コンテナ搭載（船区部C甲板3台、格納庫内3台、中央C甲板3台、後部作業甲板4台、右舷A甲板3台、左舷A甲板2台） 18台搭載可能

### 3. 「かいめい」 主要目

IMO 船舶識別番号/IMO number	IMO9712448
信号符字/Call Sign	7JVB
全長/Length overall	100.50m
幅/ Breadth extreme	20.50m
深さ/Depth	型深さ 9.0m 満載喫水 6.3m
国際総トン数/Gross tonnage	5,747 トン
航海速力/Service speed	12.0 ノット
航続距離/Endurance	約 9,000 マイル (12 ノット)
定員/Complement	65 名
乗組員/Crew	27 名
研究者/Scientist	38 名 ※ROV, BMS, PG, MCS 等運用時は研究者定員から要員の人数分を減ずる
主発電機/Main Generator	2,200 kW×2 基
補助発電機/Aux Generator	1,100 kW×2 基
主推進電動機/Prime mover	推進電動機 2,400 kW×2 基
主推進器/Propeller	アジマス推進器 5 翼固定ピッチ 全旋回式 ×2 基
バウスラスタ/Bow thruster	1,180 kW×1 基 トンネル蓋付き
旋回昇降式スラスタ	1,000 kW×1 基
減揺装置	減揺タンク (可変周期型) /Anti Rolling Tank
特殊操船装置/	自動定点保持装置 NK A 級設備 (Dynamic Positioning System)

### 4. 研究設備

「かいめい」には、3つの研究室（第1から第3）、リサーチルーム、表層海水分析室、重力計室があります。第1研究室には、音響関連及び気象関連の観測装置が設置されています。また、この部屋において KM-ROV 等の指揮を行います。第2研究室は、MCS 船上装置が設置されており、MCS 航海以外使用できません。さらに第3研究室には、薬品保管庫、コールドルーム、岩石カッター室兼暗室、塩分測定室があります。

研究者が集うスペースとして、リサーチルームを設けており、プレゼンテーションなどが可能となっています。

#### 4.1 研究室

第1研究室/No1 Laboratory	気象・海象 音響調査
第2研究室/No2 Laboratory	MCS 調査
第3研究室/No2 Laboratory セミドライ区画	物理探査、CTD 調査等のオペレーション、 可搬調査機器のオペレーション 試料分析用試薬等の保管 採取試料の処理・分析 ドラフトチャンバー装備
ウェット区画	採取試料の処理・分析 ディープフリーザー 超純水製造装置
薬品保管庫	試料分析用試薬等の保管
CTD 室	CTD センサー・採水器の格納及び採水作業
岩石カッター室兼暗室	岩石等の処理・分析
コールドルーム	サンプルの冷蔵保管
塩分測定室	塩分測定器等の可搬機器の設置が可能
表層海水分析室	表層海水連続モニタリングシステム
重力計室	重力計測 DPS 及び音響機器用の動揺計測器装備
ウインチ操作室（前部・後部）	ウインチの遠隔操作

#### 4.2 乗船人数及び居室配置（研究者）

- (1) 乗船人数：38 名（観測技術員及び運航要員を含む）
- (2) 居室配置：首席研究員…1 名（1 人部屋、公室、バストイレ付） B 甲板  
研究者室又は船員室…8 名（1 人部屋、ソファ付） B 甲板  
研究者室…29 名（1 人部屋 21 室・個室付 4 人部屋 2 室） A 甲板、上甲板  
\*B 甲板居室 8 室は、運航要員、増員乗組員を優先とします。  
\*A 甲板居室 2 室に窓が無い部屋があります。
- (3) 主たる観測に必要な運航要員、観測技術員数

観測機器	日中のみ	24 時間体制
KM-ROV	5 名	8 名
HPD	6 名	8 名
DT	5 名	6 名
BMS or PG	—	8 名
BMS 等サンプル対応	—	3 名
AUV JB&YM ASV それぞれ	5 名	—
CTD（分析を除く）	3 名	6 名
GPC	5 名	—
ドレッジ	3 名	9 名
MC	2 名	6 名
支援	1 名	3 名

状況によって大きく異なる可能性がございますので事前に担当へご相談ください。

### 4.3 研究室電源

※「一般電源」…船内に供給される動力、照明、各計器類、その他の電源

※「精密電源」…船内電源の負荷変動に影響を受けない安定した周波数による電源

研究室	AC100V 1φ一般	AC100V 1φ精密	AC220V 1φ一般	AC220V 1φ精密	AC220V 3φ一般
第1研究室	○	○	○	○	○
第2研究室	○	○	○	○	
第3研究室	○	○	○	○	○
リサーチルーム	○	○			
重力計室	○	○			
塩分分析室	○	○	○	○	
コールドルーム	○	○	○	○	
CTD 採水器室	○				
表層海水分析室	○	○	○	○	○
ウインチ操作室	○				

### 4.4 研究用コンテナ

20ft コンテナは、C甲板船首4台、C甲板中部3台、A甲板右舷3台、A甲板左舷2台、格納庫3台（右舷2段積み）、後部作業上甲板3台（左舷2段積み）計18台搭載することが可能です。

ただし、KM-ROV 運用時には、C甲板中部左舷に KM-ROV 操縦コンテナ、A甲板左舷にワークショップコンテナ、事務コンテナを搭載します。BMS 及び PG 航海においては、C甲板中部前部に BMS&PG 制御コンテナ、C甲板中に予備品コンテナ①、A甲板右舷に予備品コンテナ②を搭載します。

#### 「かいめい」用研究コンテナ

コールドルーム付コンテナ	20ft 2台（内1台は暗幕付き）
冷凍コンテナ	20ft
冷蔵コンテナ	20ft
冷蔵実験用コンテナ	20ft
GPS 気象ゾンデ放球装置コンテナ	10ft
アイソバンコンテナ	20ft
物性計測用コンテナ①（MSCL）	20ft
物性計測用コンテナ②	20ft
コア半裁装置コンテナラボ	20ft
化学分析用コンテナラボ	20ft

※アイソバンコンテナの利用は別途お問い合わせください。

## 5. 観測設備

### 5.1 主な海洋・海底観測装置

- (1) 3モード対応 MCS
- (2) 3,000m級無人探査機「KM-ROV」
- (3) 6,000m級「パワーグラブ」
- (4) 3,000m級「BMS」(海底設置型掘削装置)
- (5) Full Depth 40m級「GPC」(Giant Piston Corer)、20m級PC、ドレッジ
- (6) Full Depth CTD (36本掛採水)
- (7) 音響測位装置
- (8) マルチビーム音響測深機(深海用、浅海用)
- (9) サブボトムプロファイラー
- (10) 船上重力計
- (11) セシウム磁力計、船上三成分磁力計
- (12) 多層流向流速計 ADCP
- (13) XBT/XCTD
- (14) 船内LANシステム

### 5.2 観測ウインチ(常設)

CTD用繊維索 ケーブルウインチ	繊維索ケーブ ル	φ10.6mm	12,000m	AHC機能付き <sup>[1]</sup> ◎CTD採水装置
CTD用鋼線 ケーブルウインチ	鋼線二重鎧装 同軸ケーブル	φ10.6mm	8,000m	AHC機能付き <sup>[1]</sup> ◎CTD採水装置
大型ピストンコア ラー用ウインチ	繊維ロープ	φ30mm	12,000m	AHC機能付き <sup>[1]</sup> ◎GPC採泥
BMSケーブルウイ ンチ	光電気複合ケー ブル	φ36.6mm	7,000m	AHC機能付き <sup>[1]</sup> ◎海底設置型掘削装置 ◎パワーグラブ

<sup>[1]</sup>AHC機能: Active Heave Compensation

### 5.2 観測ウインチ(可搬型)

汎用鋼線同軸 ケーブルウインチ	鋼線二重鎧装 ケーブル (同軸)	φ10.6mm	8,000m	AHC機能付き <sup>[1]</sup> ◎CTD採水装置
小型観測機器用 ウインチ	ステンレス 製	φ6mm	1,000m	◎調査観測機材
光電気複合ケーブル ウインチ <sup>[2]</sup>	光電気複合 ケーブル	φ17.4mm	8,000m	AHC機能付き <sup>[1]</sup> ◎ディープ・トウ
大型観測ワイヤーウ インチ <sup>[2]</sup>	鋼製	φ14mm	10000m	AHC機能付き <sup>[1]</sup> ◎ピストンコアラー

係留系ロープ ウインチ <sup>[3]</sup>		φ 14 mm	6000m 巻込み可	◎現場濾過 ◎セディメントトラップ ◎係留系
係留索巻き取り ウインチ <sup>[4]</sup>				電動インバータ制御 ◎係留系用ロープ
ドレッジ用ワイヤー ウインチ	鋼製ワイヤー	φ 10 mm	200m×3 本	◎上甲板船尾運用時に使用 ◎大型ピストンコアラー用：ウインチの繊維ロープ先端に接続して使用

<sup>[1]</sup>AHC 機能：Active Heave Compensation

<sup>[2]</sup>光電気複合ケーブルウインチ、大型観測ワイヤーウインチは他船との共用機器であるため、利用に際し他船との調整が必要な場合があります。ご利用の際は別途お問い合わせください。

<sup>[3]</sup>係留系ロープウインチにはロープは含まれません。

<sup>[4]</sup>係留索巻き取りウインチに木製リール、ロープは付属していません。

※寄港地の港湾設備によっては、ウインチ等の大型機器の搭載または陸揚げができない場合があります。

### 5.3 クレーン

15/30 トンクレーン(多関節)	主巻 1 本掛け 定格 15 トン×15m / 10 トン×20m 主巻 2 本掛け 定格 30 トン×9m / 10 トン×20m 補巻 1 本掛け 定格 2 トン×20m
7.5 トンクレーン(中折れ式)	定格 7.5 トン×15m
2 トンクレーン(多関節)	定格 2 トン×11m
CTD 中折れ式ギャロス	定格 5 トン×4.5m
A フレームクレーン	内高さ：13.8m (上甲板より) 内幅 8.8m、 最大起倒角度 170° 作動時間 150 秒 最大荷重 35 トン (振出固定・観測時) 最大荷重 20 トン (起倒動作時) 補助ウインチ 5 トン (起倒動作時)

※クレーン能力は観測ウインチとの組み合わせなど使用条件により変更されます。

### 5.4 その他

自走式移動台車 (左舷用、右舷用 2 台有り)	船尾上甲板 (後部作業甲板) を 格納庫内から最後部まで縦行移動 1 台当たり 15 トンまでの物品を移送可能 (15 トン×2 台)
CTD 採水装置移動台車	CTD 室から船体中央上甲板右舷まで横行移動 1 トンまでの物品を移送可能
船首マスト	気象装置設置対応可能、大気サンプル取込口あり。
広域 DGPS 受信装置 (WADGPS)	StarPack-D (Starfix. HP, G2, XP, L1 に対応可能)
40MHz 帯方向探知機	TD-A440-2 型



オーブコム受信装置	送信：148～150.05MHz、受信：137～138MHz
アルゴス方位探知機	401.65MHz±30kHz
交通艇兼作業艇	定員 6 名 乗組員 1 名、乗艇者 5 名 ただし、作業内容等により 乗組員及び乗艇者の定員は変更となる。

## 5.5 探査機器

「かいめい」には、下記探査機器を搭載し、運用することができます。

### (1) 無人探査機「KM-ROV」

※別途、無人探査機「KM-ROV」利用の手引きをご参照ください。

[https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide\\_ship/doc/km-rov.pdf](https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide_ship/doc/km-rov.pdf)

※作業員数の目安は、日中のみ潜航の場合 5 名、24 時間潜航の場合 6 名となります。

◎詳細は、船舶運用グループまでお問い合わせください。

### (2) 深海曳航システム「ディープ・トウ」

※別途、深海曳航調査システム「ディープ・トウ」利用の手引きをご参照ください。

[http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide\\_ship/doc/dt.pdf](http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide_ship/doc/dt.pdf)

※作業員数の目安は、日中のみ潜航の場合 5 名、24 時間潜航の場合 6 名となります。

※「ハイパードルフィン」、「パワーグラブ」、「BMS」、「じんべい」、「MCS」との同時搭載、運用は行えません。

◎詳細は、船舶運用グループまでお問い合わせください。

### (3) 無人探査機「ハイパードルフィン」

※別途、無人探査機「ハイパードルフィン」利用の手引きをご参照ください。

[http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide\\_ship/doc/hyper.pdf](http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide_ship/doc/hyper.pdf)

※作業員数の目安は、日中のみ潜航の場合 6 名、24 時間潜航の場合 8 名となります。

※「ディープ・トウ」、「BMS」、「パワーグラブ」、「じんべい」、「MCS」との同時搭載、運用は行えません。

◎詳細は、船舶運用グループまでお問い合わせください。

### (4) 「パワーグラブ(PG)」

※別途「パワーグラブ」利用の手引きをご参照ください。

[https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide\\_ship/doc/pg.pdf](https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide_ship/doc/pg.pdf)

※作業員数の目安は、日中潜航、24 時間潜航を問わず 8 名となります。

※「ディープ・トウ」、「ハイパードルフィン」、「じんべい」、「MCS」との同時搭載、運用は行えません。

◎詳細は、船舶運用グループまでお問い合わせください。

### (5) 「海底設置型掘削装置(BMS)」

※別途、「海底設置型掘削装置 (BMS)」利用の手引きをご参照ください。

注)「利用の手引き」後日掲載予定

※作業員数の目安は、日中潜航、24時間潜航を問わず8名となります。

※「ディープ・トウ」、「ハイパードルフィン」、「じんべい」、「MCS」との同時搭載、運用は行えません。

◎詳細は、船舶運用グループまでお問い合わせください。

- (6) 自律型深海探査機「じんべい」を搭載して運用することができます。

※別途「パワークラブ」利用の手引きをご参照ください。

[https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide\\_ship/doc/jinbei.pdf](https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide_ship/doc/jinbei.pdf)

※作業員数の目安は、日中潜航のみ5名となります。(夜間潜航は行えません)

※「ディープ・トウ」、「ハイパードルフィン」、「パワークラブ」、「BMS」、「MCS」との同時搭載、運用は行えません。

◎詳細は、船舶運用グループまでお問い合わせください。

- (7) 「かいめい」マルチチャンネル音波探査装置 (KM-MCS)

※別途「「かいめい」マルチチャンネル音波探査装置」利用の手引きをご参照ください。

[https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide\\_ship/doc/mcs.pdf](https://www.jamstec.go.jp/maritec/j/boarding/guide_ship/doc/mcs.pdf)

※「ディープ・トウ」、「ハイパードルフィン」、「パワークラブ」、「BMS」、「じんべい」、「40mPC」との同時搭載、運用は行えません。

◎詳細は船舶運用グループまでお問い合わせください。

## 6. 航海計器・ネットワーク等

### 6.1 航海計器

- (1) 電子海図・・・操舵室コンソール及びウインチ操作室に装備される。

- (2) 船舶自動識別装置 (AIS)

・・・操舵室に受信機を装備する。

- (3) 自動定点保持装置 (DPS)

・・・操作ターミナル(操舵室コンソール)。風向風速、船首方位、WADGPS、モーションセンサー、音響測位装置、主配電盤の情報を入力し、アジマス推進器2台、バウスラスタ(トンネル式、昇降旋回式)の推進器を制御し、定点保持を行うことが可能である。

- (4) その他・・・航海当直警報装置 (BNWAS)

### 6.2 通信設備

以下の通信設備により、通話、メール、インターネットの利用が可能です。

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| ➤ VSAT            | データ通信 (メール、インターネット)   |
| ➤ インマルサット FB      | データ通信 (バックアップ)、電話     |
| ➤ 船舶電話 (ワイドスターII) | 電話、FAX、データ通信 (バックアップ) |

データ通信（メール、インターネット）は定額制の VSAT で行っています。2 つの VSAT システムを切り替える事によりアンテナブロッキングゾーン無くしています。

船舶電話番号 : 090-3022-3996  
船舶 FAX 番号 : 03-6888-5535  
インマル FB 番号 : 010-870-7731-93366  
E-mail : mail@kaimei.jamstec-rv.jp  
(事務室宛てにメールが届きます。)

## 通話

- ①船舶電話及びインマルサット FB は船内電話の交換機に接続しています。  
外線が掛かってきた場合、最寄りの電話に繋がります。(船内放送でお知らせします。)
- ②公衆電話型の船舶電話通話機を上甲板に設置しております。  
利用範囲は日本近海です。  
100 円硬貨及び Edy が使用できます。(本船で Edy のチャージはできません。)
- ③電話をご利用の際は電子観測部に相談してください。私用の場合は利用料をお支払いいただきます。

## 6.3 船内 LAN サーバー

### (1) 船内 E-mail

- ①「かいめい」用 E-mail アカウント (〇〇〇〇@kaimei.jamstec-rv.jp) をご希望される方は、乗船後に本船電子観測部にお申し込み下さい。
- ②送受信時刻 : 常時 (10 分程度の間隔)  
本船では、VSAT をメインの通信機器としていますが、通信エリア外ではインマルサット FB へ切り替えるなどの対応をしています。
- ③船上で使用する E-mail の使用に際しては、写真やデータなどを添付する場合は極力サイズを小さくしてください。

### (2) インターネット

「かいめい」では、VSAT 衛星を利用したインターネットがご利用いただけます。ただし通信回線はベストエフォート DOWN (陸→船) で最大 1 Mbps、UP (船→陸) で最大 512kbps です。(最低帯域保証は 64/64kbps (UP/DOWN))  
使用回線は 1 回線ですので皆様の使用方法によっては通信速度が遅くなります。VSAT が使用できない環境では従量課金制の通信機器を使用しますので、インターネットの利用を制限します。

※下記事項については通信負荷が増大しますのでおやめ下さい。

- ・ You Tube 等の動画再生、Line アプリ等を使用した音声通信
- ・ 大容量のファイルのダウンロード
- ・ スマートフォンのアプリのアップデート
- ・ Windows のアップデート
- ・ VPN を介した通信の常時接続 (例: イン트라ネットへのアクセス)

### (3) 船内ネットワークシステム

「かいめい」では船内各所に無線 LAN ルーターを装備しており、以下の設定により船内 LAN のコンテンツ、メール、インターネットを利用することが可能です。

ただし、船内 LAN に接続する PC、タブレット、スマートフォンは必ず最新のウイルスチェックが済んでいる事を確認してください

①船内の無線 LAN アクセスポイント「kaimei-wlan」(セキュリティWPA2)へ接続します。

※セキュリティキーは電子観測部へ確認してください。

②船内の無線 LAN に接続されましたら、インターネットブラウザを起動します。

③ユーザー認証画面が表示されたら、ユーザーネームとパスワードを入力し、ログインします。

※ユーザーネームとパスワードは乗船後、電子観測部へお問い合わせください。

④ログインが完了すると、船内ネットワーク、共有ファイル、メール、インターネット、ITV カメラ視聴等が自由にご利用いただけます。

⑤E-mail の各種設定 (受信・送信サーバ IP など) は電子観測部にお問い合わせください。

⑥共有ファイルサーバーには、ネットワークアプリケーションに必要なソフトが各種保管されています。(プリンタドライバ等)

### (4) 乗船研究者が利用できる船内 LAN のコンテンツは以下の通りです。

PC やスマートフォンの標準ブラウザで利用できます。

①一般航海情報 (気象海象、機関出力、ウインチの線長及び張力、航跡等) の閲覧または任意の設定によるテキスト表示。

②船内カメラ映像や ROV カメラ等の観測映像の閲覧 (多少のタイムラグがあります)

③観測データ及び航海データの検索と CSV 出力、観測野帳及び定時ログの作成

### (5) 各観測機器で取得された RAW データは共有サーバーの「Obs」フォルダーに保存しています。また、SOJ、拡張 SOJ、SOQ、JamMet データについては保存と配信を行っています。

### (6) その他、様々なメニューがありますのでご自由にご利用ください。

ご不明点は電子観測部までお問い合わせください。

## 7. 「かいめい」で取得可能なデータ

「かいめい」で取得可能な一般的なデータは以下の通りです。データの持ち帰りに必要な記録媒体については利用者側でご準備ください。また研究航海の種類によりデータの取扱は異なります。

### (1) 共有サーバー「Obs」に保存される RAW データ

「Obs」に保存される RAW データ

フォルダ名 / Folder Name	観測機器名 / Observational Equipment Name
ANS	音響測位装置 / Acoustic Navigation System
CeiloMeter	シーロメーター / Ceilometer
CESIUM	セシウム磁力計 / Cesium Magnetometer
CTD	CTD 採水装置 / CTD/Water Sampler
DADCP	深海用多層式流向流速計 / Deep Sea Acoustic Doppler Current Profiler
DMBES	深海用マルチビーム音響測深装置 / Deep Sea Multi-Beam Echo Sounder
EXSOJ	拡張 SOJ / Extend SOJ
Fuel	燃料消費量モニタ / Fuel consumption monitor
GPSVA	GPS 水蒸気量観測装置 / GPS Vapor Analyzer
GRAVITY	船上重力計 / Ship-board Gravity Meter
JamMet	
PAR	海上光合成有効放射量 / Photosynthetically Active Radiation
PHINS	高精度方位動揺測定装 / Inertial Navigation System
SADCP	浅海用多層式流向流速計 / Acoustic Doppler Current Profiler for Neritic Sea
sbp	サブボトムプロファイラー / Sub Bottom Profiler
SMBES	浅海用マルチビーム音響測深装置 / Multi-Beam Echo Sounder for neritic sea
SOJ	
SOQ	
STCM	三成分磁力計 / Ship-board 3 Components Magnetometer
SVP	音速プロファイル / Sound Velocity Profile
THERMO	放射水温計 / Water Eradiation Thermometer
TSG	表層海水連続分析装置 / Continuous surface seawater Analyzer
wave	レーダー波高計 / Radar Wave Gauge
XBT	投下式水温測定器 / eXpendable Bathy Thermograph
XCTD	投下式水温・塩分測定器 / eXpendable Conductivity Temperature Depth profiler

- (2) 船内 LAN メニュー内にある「データ検索/定時ログ」より取得できる CSV ファイル。  
 (1 秒、5 秒、10 秒、30 秒、1 分、2 分、3 分、5 分、10 分、15 分、30 分、60 分間隔  
 でダウンロード可能。ただし、観測機器によって収録間隔は異なりますので、詳細は  
 電子観測部にお問い合わせください。)

テキストデータ

ファイル名 / File Name
ジャイロコンパス / Giro Compass
電磁ログ / Electromagnetic Log
ドップラーログ / Doppler Log
航海用音響測深機 / Navigational Echo Sounder
電気時計 / Electric Clock
ECDIS
広域 DGPS 受信装置 No.1 / Wide area DGPS Receiver No.1Wide area DGPS Receiver No.1
広域 DGPS 受信装置 No.2 / Wide area DGPS Receiver No.2
広域 DGPS フィルタ処理 / Wide area DGPS Filtered Data
自動定点保持装置 (DPS) / Dynamic Positioning System/ Dynamic Positioning System
船舶自動識別装置 (AIS) / Automatic Identification System
船上重力計 / Ship-board Gravity Meter
高精度方位動揺測定装置 (PHINS) / Inertial Navigation System (PHINS)
表層海水連続モニタリングシステム / Continuous surface seawater monitoring system
バラスト制御装置 / Ballast Control System
ROV
放射水温計 / Water Eradiation Thermometer
気象海象観測装置(気象総合データ) / Meteorological Oceanographic Observational Equipment (Meteorological integrated Data)
気象海象観測装置(風向風速 No. 1) / Meteorological Oceanographic Observational Equipment (Ultrasonic Wind Sensor No.1)
気象海象観測装置(風向風速 No. 2) / Meteorological Oceanographic Observational Equipment (Ultrasonic Wind Sensor No.2)
気象海象観測装置(風速平均) / Meteorological Oceanographic Observational Equipment (Average Wind Speed)
表面音速度計 / Sound Velocity Meter
深海用マルチビーム音響測深装置 / Deep Sea Multi-Beam Echo Sounder

浅海用マルチビーム音響測深装置 / Multi-Beam Echo Sounder for neritic sea
深海用多層式流向流速計 (38KHz) / Deep Sea Acoustic Doppler Current Profiler (38KHz)
浅海用多層式流向流速計 (150KHz) / Acoustic Doppler Current Profiler for Neritic Sea (150KHz)
音響測位装置 / Acoustic Navigation System
セシウム磁力計 / Cesium Magnetometer
観測ウインチ / Observation Winch
三成分磁力計 / Ship-board 3 Components Magnetometer
シーロメーター / Ceilometer
PAR 計 / PAR Meter
ROV ウインチ / ROV Winch
深海用 ADCP128 層 (流向流速) / Deep Sea ADCP 128 Cells (Current Velocity)
深海用 ADCP128 層 (その他) / Deep Sea ADCP 128 Cells (Others)
浅海用 ADCP128 層 (流向流速) / Neritic Sea ADCP 128 Cells (Current Velocity)
浅海用 ADCP128 層 (その他) / Neritic Sea ADCP 128 Cells (Others)
アナログ信号 (B/T, アジマス推進器) / Analog Signal (B/T, Azimuth Thruster)
機関監視記録装置 (データロガー) / Engine Monitoring Recorder (Data Logger)
波高計 / Wave Gauge

(3) 船内 LAN サーバーで保存されている各観測機器から出力されたテキストデータ  
共有サーバー等に保存はいたしませんので、必要な方は電子観測部にお問い合わせ  
ください。

## 8. 運用

### 8.1 行動の標準スケジュール

- (1) 海域での調査日数のほか、悪天候の場合の予備日、調査海域までの回航日、研究者乗下船のための寄港等を考慮して航海を計画しています。
- (2) 調査海域までの回航や調査海域間の移動に際し、母船の航海速度は 12 ノットで計算しています。
- (3) 大型観測ワイヤーウインチや光電気複合ケーブルウインチを搭載した際には甲板上に搭載する観測機器のスペースが限られます。
- (4) 原則として、甲板作業は 24 時間対応可能です。ただし大規模な観測や明るい時間帯に回収する必要があるものなどは、当直体制を変更します。その際には夜間の調査・観測は甲板作業を伴わない調査・観測のみ実施可能です。

### 8.2 運航制限

安全運航を考え、一般的な環境や船の状態について下記の基準が設けられており、これを超える場合は調査を実施しないこととします（「BMS」等サンプリング装置につ

いては別の制限がありますので、各利用の手引きをご参照ください。

- (1) 現在の海象が風浪階級：5、うねり階級：4、風力階級：7、以上の場合またはそのような海象が予想される場合。
- (2) 現在の波高が1/3有義波高2.5mを超える場合、またはそのような海象が予想される場合。
- (3) 現在の視程が300m未満の場合またはそのような視程が予想される場合。
- (4) 急激な海況の悪化が予想される場合。
- (5) 調査海域に爆発物、その他、絡んだり拘束されたりする可能性が存在する場合（位置、形状が十分に確認されており、やむを得ない場合は除く）。
- (6) 航路筋等の船舶の輻輳する海域での調査。
- (7) 搭載されている機器が正常に作動する状態でない場合（但し、バックアップシステムがあるもの及び観測機器に関しては船長もしくは首席研究員の判断により可能）。
- (8) 船上の音響測位装置システムが正常な作動状態にない場合。
- (9) 海底ケーブルが敷設された海域での潜航調査を行う場合は、JAMSTEC の定める「**潜水船及び無人機等の海底ケーブルに対する作業安全基準（参考資料）**」に従うこと（但し、研究安全委員会の承諾を受けている場合はこの限りではない）。

## 9. 安全対策

- (1) 乗船中の安全確保には各自十分に注意を払い、JAMSTEC が定める「**安全衛生心得（抜粋）**」を参照し、安全を心掛けてください。
- (2) 作業にあたっては安全に十分注意し、移動中の重量物（重錘など）や張力のかかったワイヤーからは安全な距離を確保してください。
- (3) 「海底設置型掘削装置」、「パワーグラブ」、「ハイパードルフィン」、「ディープ・トウ」の作業・潜航中は、動力源として高電圧を通電します。作業・潜航中（高電圧通電中）は、絶対にアンビリカルケーブルに触れないでください。また、「ストレージウインチ」、「トランクションウインチ付近」、その他立ち入り禁止区域に入らないでください。
- (4) 作業時には必ず安全保護具（安全靴・ヘルメット・安全ベルト・手袋など）を着用してください。また、後部甲板など暴露部で作業をする場合には、甲板作業用のライフベストを必ず着用してください。
- (5) 緊急時は船橋に連絡してください。
- (6) 指定場所以外での喫煙は厳禁です。
- (7) 乗船後、各自非常時に脱出する経路を確認してください。

異常発生時や緊急事態の場合は、JAMSTEC が定める「**事故・トラブル緊急対処要領**」及び乗組員の指示に従ってください。



## 「かいめい」調査観測装置

機器名	型式	仕様
浅海用マルチビーム音響測深機	EM-712	40～100kHz
深海用マルチビーム音響測深機	EM-122	12kHz 表面音速計、海底地形解析ソフト 付属
サブボロムプロファイラー	TOPAS PS18	1次 15～21kHz 2次 0.5～6kHz
音響測位装置		10～17kHz、SSBL、LBL 音響コマンド機能
浅海用多層式流向流速計	OS-ADCP	150kHz
深海用多層式流向流速計	OS-ADCP	38kHz
海底地殻変動センサー測位用送 受波器 <sup>(※)</sup>	ITC-3482	7.5～12.5(kHz)
気象海象観測装置	AWS430 (VAISALA Inc.)	風向/風速、気温/湿度 水温、雨量、日射、放射 気圧、光合成有効放射
シーロメーター (雲底高度計)	CL51 (VAISALA Inc.)	雲レポート範囲：0～13km
大気・海水二酸化炭素分圧測定 装置		繰り返し精度：RSD=0.025%以下
表層海水連続モニタリングシス テム		水温、塩分、溶存酸素、クロロフ イル
GPS 水蒸気量観測装置	受信機：NetR9 Ti-1 アン テナ：GNSS-Ti Choke Ring Antenna with radome	
海上光合成有効放射量 (PAR)	PUV-2510	
放射水温計	ROSR1	
船体動揺船首方位測定装置	PHINS	方位精度 0.01° 動揺精度 0.01°
船上重力計	MGS-6 (Micro-g LaCoste 社)	分解能：0.01mGal
セシウム磁力計	Geometrics G882	曳航速度 4～6knot (常時), 最大 12knot
三成分磁力計	SFG1216	磁場測定範囲：±100,000 nT
CTD 採水装置	SBE 911plus, SBE43, SBE27	水深、水温、電気伝導度、圧力、 溶存酸素、pH/OPR、海底高度計、 蛍光光度、濁度、光合成有効放射
12L 採水器		ニスキン型 12liter×36本
ピンガー		送波音圧 210dB
トランスポンダ	広帯域用  狭帯域用	13.5～16.5kHz アップチャープ 16.5～13.5kHz ロワーチャープ 13.5～16.5kHz M系列信号 13kHz
XBT/XCTD 装置	AL-12B LM-3A MK-150	自動ランチャー (12連式) ハンドランチャー デジタルコンバータ

(※) 船上装置は利用者側が持ち込む必要があります。

潜水船及び無人機等の海底ケーブルに対する作業安全基準

種 類		接近制限等
潜水船等 (潜水船、ROV、AUV、 UROV、ディープ・ト ウ) CTD 等		<ol style="list-style-type: none"> <li>水深 1000m 以下の場合はケーブルの両側 1000m 以内には近づかない。水深 1000m 以上の場合は水深の 1 倍以内には近づかないこと。</li> <li>ケーブル近傍であっても、海底地形が平坦で、且つ海底からの高度を 10m 以上保ってソーナーや CTD 等による調査を行う場合は、制限を設けないものとする。また、局所的に複雑な微細地形の海底に敷設されたケーブルの直上付近を通過する場合は、最寄りの最も浅い水深 20m 以上の高度を保つこと。</li> </ol>
底質及び 生物採取	ドレッジ、 ビームトロ ール等底質 及び生物採 取装置	<ol style="list-style-type: none"> <li>ケーブル敷設方向に向かってドレッジを行う場合は、水深の 3 倍以内（水深 1000m 以下の場合は、ケーブルの両側 3000m 以内）には近づかないこと。</li> <li>ケーブル敷設方向から離れる方向にドレッジを行う場合は、水深の 1 倍以内（水深 1000m 以下の場合は、ケーブルの両側 1000m 以内）には近づかないこと。</li> </ol>
	ピストン、 グラビティ、 マルチプル・ コアラー等 による採泥	水深の 1 倍以内（水深 1000m 以下の場合は、ケーブルの両側 1000m 以内）には近づかないこと。
係留系の 設置	表面ブイ式 係留系	<ol style="list-style-type: none"> <li>設置予定海域で予想される、最大の表面流によって係留系が走錨しないように設計した係留系の場合は、潜水船等と同じ制限とする。</li> <li>設置予定海域で予想される、最大の表面流によって、係留系が走錨するように設計した係留系の場合は、水深の 3 倍以上離して設置すること。</li> </ol>
	水没ブイ式 係留系	潜水船等と同じ制限とする。
自由落下浮上式観測 機器の設置		自由落下浮上式観測装置とは、自己記録型長期観測ステーション、熱流量計、温度計、OBS、OBEM等を指す。これらは、ケーブルに損傷を与える可能性がほとんどないため、特に制限を設けない。ただし、回収不能の際にROV等によって回収を予定する場合は、潜水船等と同じ制限とする。